

全国の救急外来において自傷・自殺未遂で治療を受けられた方およびそのご家族の方へ

—「自傷・自殺未遂による夜間週末の受診と精神科コンサルトの関係性の検証」へご協力
のお願い—

研究機関名およびその長の氏名：岡山大学病院 前田 嘉信
研究責任者：岡山大学病院救命救急科 湯本 哲也

1) 研究の背景および目的

自傷・自殺未遂は繰り返すことも稀ではなく、また自殺の危険性とも関連があるため、適切な精神的介入が重要であるとされています。救急外来で精神的評価や治療介入を実施することにより、自傷・自殺未遂による再受診率や自殺が減少するとの報告がなされています。しかしながら、過去の研究では自傷・自殺未遂で救急外来を受診した患者のうち、精神科へのコンサルトが行われた例は4分の1に留まるとされています。ところで、週末・夜間の緊急入院は疾患によらず平日・日中のそれと比較して予後不良と関連することや、救急外来の混雑はガイドラインが順守されない傾向があることも示されています。そこで、本研究は本邦における自傷・自殺未遂レジストリのデータベースを用いて、救急外来を受診した自傷・自殺未遂患者の再受診や自殺を予防するために重要な介入となる精神科へのコンサルトが、受診の時間帯や曜日によって異なるかを明らかにすることを目的とします。

2) 研究対象者

2022年12月1日～2023年12月31日の間に全国の救急外来において自傷・自殺未遂の治療を受けられた方約1,721名を研究対象とします。

3) 研究期間

研究機関の長の許可日～2029年12月31日

情報の利用（または提供）開始予定日：研究機関の長の許可日から約2週間後

4) 研究方法

本邦において多機関が参加する自傷・自殺未遂レジストリに2022年12月1日から2023年12月31日に登録された患者さん1,721人を対象に救急外来の受診時間・曜日と精神科コンサルトの関連性について調べます。

5) 使用する情報

個人を特定することができない状態で提供されたデータセットから以下の情報を使用します。

- ・研究対象者の基本情報：年齢、性別、受診曜日、受診時間など
- ・診断名
- ・精神科コンサルトの有無、精神科コンサルトの時期など
- ・転帰、つなぎ（フォローアップ先への）情報提供の有無など

6) 情報の保存

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、岡山大学病院臨床研究棟1F救命救急科医局内で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピューターに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

7) 研究資金と利益相反

この研究は、特段の資金を用いずに実施します。

この研究に関して利害関係が想定される企業等で研究責任者や分担者あるいはその家族が活動して収入を得ているようなことはありません。

8) 研究計画書および個人情報の開示

あなたのご希望があれば、個人情報の保護や研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、この研究計画の資料等を閲覧または入手することができますので、お申し出ください。

内容についておわかりになりにくい点がありましたら、遠慮なく担当者にお尋ねください。

この研究は氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

<問い合わせ・研究への利用を拒否する場合の連絡先>

岡山大学病院 救命救急科

氏名：湯本 哲也

電話：086-235-7426（平日：9時00分～16時00分）

既存情報の提供のみを行う機関

自傷・自殺未遂レジストリ（JA-RSA）